

蓮田市まち・ひと・しごと創生有識者会議 第3回会議録

招集日	平成27年11月13日(金曜日)	
開催場所	蓮田市役所 3階 301会議室	
開催日時	開会 平成27年11月13日(金) 午後5時00分 閉会 平成27年11月13日(金) 午後7時50分	
出席状況	会長 中山 和久	出席・欠席
	副会長 浅田 章裕	出席・欠席
	委員 中里 幸一	出席・欠席
	委員 廣本 覺	出席・欠席
	委員 田口 真悟	出席・欠席
	委員 吉澤 一徳	出席・欠席
	委員 島田 道太	出席・欠席
	委員 高橋 恵美子	出席・欠席
	委員 寺澤 亜希子	出席・欠席
	委員 黒堀 英俊	出席・欠席
出席職員	<p>【蓮田市まち・ひと・しごと創生本部員】</p> <p>蓮田市長 中野 和信 副市長 新井 勉 教育長 西山 通夫 総合政策部長 (渡辺 実紀夫) 総務部長 若山 克美 環境経済部長 岩瀬 英幸 健康福祉部長 椿本 美栄子 都市整備部長 細井 盛賢 西口開発部長 岩崎 弘 上下水道部長 亘 宏邦 会計管理者 加賀谷 武憲 消防長 岡野 和男 学校教育部長 宗方 健二 生涯学習部長 小林 健一郎 議会事務局長 千代 康弘 監査委員事務局長 田口 久雄</p>	<p>【事務局】</p> <p>総合政策部調整幹 田島 幸則 総合政策部長兼 政策調整課長 渡辺 実紀夫 政策調整課 主任 水沼 哲也</p>
その他の出席者	総合政策部次長兼広報広聴課長 大久保 忠広 ㈱ジャパン総研(守屋翔太、小林幹夫)	
傍聴者	4名	

資料の確認	(略)
1. 開会	(田島調整幹)
2. あいさつ ・中山会長挨拶	<p>(中山会長)</p> <p>皆様、今日をご参加いただきましてありがとうございます。いよいよ会議が本格的になってまいりました。皆様のお手元に分厚い資料がございまして、特に今日は資料4、これを叩いて物にしていく作業が私共に課せられている訳ですので、どうかご協力宜しくお願いいたしたいと思ひます。</p>
・市長挨拶	<p>(蓮田市長 中野和信)</p> <p>皆様こんばんは。大変お忙しいところ、また今日はちょっと雨模様のところ、このように中山会長さん始め委員の皆様方にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。只今中山会長さんのご挨拶にもありましたように、第3回の会議で蓮田市のまち・ひと・しごと創生事業も具体的にご審議を賜る段階になってまいりました。後程それぞれの項目につきまして、担当から説明を申し上げます。そして、市民アンケートがまとまりました。また、埼玉県のみち・ひと・しごと創生総合戦略が示されております。上位計画であり、非常に重要でございますので、その辺も概略を説明させていただきます。埼玉県の場合、この位でいいのかなという感じで、考え方と人口ビジョン等が示されました。問題は蓮田市でございますが、3番目の資料にこの蓮田市の人口ビジョンの素案をまとめてございますので、いろいろとご意見を賜りたいと思っております。また、一番大事な蓮田市のまち・ひと・しごと創生総合戦略のたたき台でございますが、只今蓮田市では様々な事業を実施しております。今回は粗集約といいますが、項目毎にまとめたものを資料として用意いたしました。最終的に蓮田市のまち・ひと・しごと創生総合戦略の素案にどの程度載せるのかということになりますと、埼玉県のみち・ひと・しごと創生総合戦略を参考にしながら皆様方のご意見をいただきたいのですが、その基本的な部分として、今取り組んでいる、或いはこれから取り組むべき膨大な事業をたたき台として整えたところでございます。今日はその辺についていろいろとご意見等をいただきたく宜しくお願ひ申し上げます。挨拶が長くなりましたが、本日はどうぞ宜しくお願ひします。ありがとうございます。</p>
定足数の確認	<p>(田島調整幹)</p> <p>会議開催要件の説明、出席者数(9名)、会議成立の報告。</p>
3 議事 傍聴希望者の 確認	<p>(田島調整幹)</p> <p>傍聴人の確認、傍聴希望者ありの報告。</p> <p>(田島調整幹)</p> <p>では、これより先、蓮田市まち・ひと・しごと創生有識者会議設置要綱第6条第2項の規定により、中山会長に議長になっていただき、議事の進行をお願いしたいと思います。それでは中山会長、どうぞ宜しくお願ひいたします。</p> <p>(中山会長)</p> <p>議長の役を承りましたので、これより先本日の議事を務めさせていただきますと思ひます。皆様ご協力の程宜しくお願ひします。それではまずこの議事1ですが、「第2回市民アンケート調査結果の報告について」、事務局よりご説明をいただきたいと思ひます。</p>

<p>1) 第2回市民アンケート調査結果の報告について</p> <p>2) 埼玉県まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について</p>	<p>(事務局) こちらの第2回市民アンケート調査につきましては、市民アンケートの集計及び分析を行っていただきました株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所の守屋氏よりご説明をさせていただきたいと思ひます。</p> <p>(株)ジャパン総研) 【資料1説明】</p> <p>(中山会長) ありがとうございます。これはもう前回大体皆さんにご審議いただいたものですので、ただ単にちょっと付け加えた所があるというところ。この資料1につきまして、委員の皆様から何かご質問、ご意見ございますか。大体常識的な、市民の方だったら常日頃から起こっていることがそのまま数字となつてこうして結果として出てきたのかなというところだと思います。特にないようでしたら、この資料1に関しましては、こういう事実だということ把握した上で、ではこの事実に対してはどうしたら良いのかというところで終了いたします。</p> <p>続いて資料2の「埼玉県まち・ひと・しごと創生総合戦略について」に移りたいと思ひます。ではこちら事務局から説明をしていただきたいと思います。宜しくお願ひします。</p> <p>蓮田市の人口ビジョン、及びまち・ひと・しごと創生総合戦略を策定するのにあたりまして、国、県のものをお案する必要がございます。この度埼玉県のみち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）が公表されましたので、県民コメント（パブリックコメント）用に埼玉県のホームページに公開されたものを皆様に配布させていただきました。こちらにつきましては埼玉県の計画調整課が策定したものでございます。担当の職員ではございませんが、埼玉県の職員として本日は島田委員様がせっかくいらっしゃいますので、島田委員からご説明をお願ひしたいと思ひます。島田委員宜しいでしょうか。</p> <p>(島田委員) 【資料2説明】</p> <p>(中山会長) 島田委員、どうもありがとうございます。国が音頭を取っていますが、埼玉県でも相当頑張つて、特に高齢化率日本一という予想が出ておりますけれども、こういったことを逆手にとって、高齢者が日本一安心して暮らせる県というような名誉が取れば、これは素晴らしい施策だなと感じました。今の資料2につきまして、何かご質問、ご意見ございますか。こちらは県の戦略ということで、これを踏まえて、では蓮田市はどうするのかという話のほうが大切ですので、特に無いようでしたら議題（2）はこれで終了したいと思ひます。</p> <p>さて段々本格的に、いよいよ蓮田市というところに入って参りました。3番目の議題といたしまして、「蓮田市人口ビジョン（素案）について」に移りたいと思ひます。こちら事務局からご説明いただきたいと思います。宜しくお願ひします。</p>
--	--

<p>3) 蓮田市人口ビジョン（素案）について</p>	<p>(事務局) 【資料3説明】</p> <p>(中山会長) ありがとうございました。アンケート結果や委員のご意見なども盛り込まれて19ページの課題の整理が非常に良くできているかなと感じました。そしてその課題の整理を踏まえて、26ページの蓮田市はどのような将来を目指すのかというところも4つの大枠として整理して下さって、非常に分かり易かったかと思えます。委員の方々からは何かご質問やご意見などございますか。</p> <p>(田島調整幹) 会議中大変恐縮でございますが、中野市長と新井副市長、西山教育長はこの後所要がありまして退席させていただくことをお許しいただきたいと存じます。</p> <p>(中野市長) この後のご意見をお聞きしたかったのですが、本当に申し訳ございません。今担当から申し上げました話を聞いているだけで、蓮田市は可能性のあるまちですので、何とか頑張りたいと思っております。後半宜しく願いいたします。</p>
<p>4) 蓮田市まち・ひと・しごと創生総合戦略（たたき台）について</p>	<p>(中山会長) 残念ながら市長さん達は所用があるということでご退席になります。 では議事のほうに戻りまして、委員の皆様方、何かご意見、ご質問はございますか。大枠はこのようなもので良いのかなと感じておりますので、それではいよいよ今日の一番大変な所、本丸のほうへ移りたいと思えます。いよいよ4番目の議事です。では、蓮田市は具体的に何をこれからするのかというところについて、たくさんたたき台を作ってくださいましたので、資料(4)「蓮田市まち・ひと・しごと創生総合戦略(たたき台)について」と、資料(4)と関連があるということで、資料は無いのですが、続けて議題(5)の「関係団体ヒアリング状況について」、これらを事務局からご説明いただきたいと思います。宜しくお願いします。</p>
<p>5) 関係団体ヒアリング状況について</p>	<p>(事務局) 【資料4及び議題(5)説明】</p> <p>(中山会長) はい、ありがとうございました。関係団体ヒアリング状況について、社会福祉協議会とカンガルーポッケさんのご意見をいただいて、かなりアンケート調査の結果と重なるところが多いかなと。あと委員の方々からご意見をいただいたものともかなり重なっているのかなと感じました。それではこの資料4のたたき台について、ご審議いただきたいと思います。まず、質問のほうから、確認とか、これはどういうことなのかとか、ちょっとわかりにくいところとか、具体的に何を示しているのかとか、その辺りのご質問からいただければと思うのですが、いかがでしょうか。この資料4に関して不明な点等、ご質問ございませんでしょうか。委員の皆様方にはこれを事前に配布させていただいて、一応ご確認いただけたと思いますので、今質問は一応大丈夫ということですね。それではご意見の方を早速賜りたいと思えます。まずこれはいろいろたくさんありますので一個ずつ、1番目の「新たな産業、多様な雇用を創出する」というところ限定します。この中で施策(1)から(4)までありますけれども、かなり予算も限られている訳ですから、これはちょっと優先順位が低いのではないかと、</p>

こちらを優先して重点的に予算を配分して実行してほしいとか、その辺りの御意見などがあれば一番ありがたいかなと思います。委員の皆様方がいかがでしょうか。はい、では吉澤委員お願いします。

(吉澤委員)

施策(1)の「スマートIC整備推進事業」の件です。ハーフインターという言葉は初めて聞いたのですが、フルインターにすると書いてあります。今度の新しいサービスエリアはスマートインターチェンジを作らないのですか。

(細井都市整備部長)

それでは、スマートインターチェンジの今後の事業についてご説明させていただきます。スマートインターチェンジは、現在の蓮田サービスエリアに東京方面へのインと東京方面からのアウトが設置されております。今川島地区に新しいサービスエリアが工事中でございますが、こちらが完成した時には、ここに東京方面へのインと宇都宮方面からのアウトを設置いたします。これを新サービスエリアの完成と同時に設置できるように今事業を進めております。そのスマートインターチェンジ工事と上り線工事が完成したら、現在の上りのサービスエリアは一旦閉鎖し、橋を2本掛けてつないで、全部を下り線専用のサービスエリアに改装する予定です。その時には今の東京方面からのアウトはそのまま使用し、東京方面へのインとなっている所は下り線のサービスエリアとなりますので、宇都宮方面へ行けるようにする予定になっております。完成時期はずれるのですが、この両方が完成した時には4方向全てが乗り降りできるということで現在事業を進めています。

(吉澤委員)

では、現在のサービスエリアは、スマートインターチェンジの入口・出口だけになるということで、サービスエリアとしての機能はなくなるということですか。

(細井都市整備部長)

いえ、新しいサービスエリアは上り線専用のサービスエリアとして、現在の上下線のサービスエリアは橋でつないで下り線専用のサービスエリアとして使いますので、サービスエリアとしては両方が存続していきます。

(吉澤委員)

でも、両方がサービスエリアとして機能するのは、新サービスエリアができ、現在のサービスエリアを改修してからということですか。

(細井都市整備部長)

そうですね。完成時期につきましては、新しいサービスエリアは工事に着手してから5年とのことですので、平成30年度位、オリンピック前には新しい上り線はできる予定です。オリンピック中に既存のサービスエリアの工事はなかなかできないので、オリンピックをはさんでオリンピック後に既存のサービスエリアを改修する工事が始まるというようなスケジュールです。

(吉澤委員)

わかりました。

(中山会長)

工事が複雑でなかなか理解しがたいところがありますが、ありがとうございます。観光あるいは企業誘致、物流という形では、かなり効果的な事業かなと思いますね。他にご意見ございますか、はい、中里委員お願いします。

(中里委員)

就業人口の増加を見込むには、一番手っ取り早いのはご承知の通り、企業誘致が一番実効的だと思うのです。蓮田の立地条件等を考えますと、今の細井都市整備部長のお話にもございましたように、ネクスコ東日本さんのほうで新たなサービスエリアを作っていただけということですが、ネクスコ東日本さんの上りのサービスエリアだけでは蓮田には何のメリットもありません。そこにスマートインターチェンジを設置することによって地元の利便性が良くなるということで、地域の発展にもつながってくるのではないかと思います。当然のことながら、まち・ひと・しごと創生総合戦略（たたき台）の中にもお示しいただいているので、それはそれで早急に取り組んでいただいて、なるべく早く実現できるようにお願いしたいと思います。併せて、これから作るのであれば、できれば物流とかいろいろなことを考えたときには、普通車だけではなく、大型自動車が通行できるように、もうちょっと大きなスマートインターチェンジにして幅を広げるとか、何か工夫をされて将来にその可能性を残していただけるような開発をしてほしいと思います。さらに、ではスマートインターチェンジを作りました、でも土地の用途変更ができなくて企業の誘致ができませんとなるとアンバランスですので、ちょっとお伺いしたいのは、蓮田市が意向を示せば、県や国のほうとしては、今回の地方創生、まち・ひと・しごと創生の関係で、規制の緩和が緩やかになるのでしょうか。

(中山会長)

これはどなたかご存じでしょうか。はい、お願いします。

(細井都市整備部長)

大型車利用という点について。スマートインターチェンジを設置する協議にあたり、大型車を出入りさせるべきか否かということに関係機関と協議しております。基本的には将来4方向で出入りした時に、先程言った複雑な出入りの関係があります。例えば東京方面へ行く時は新しいスマートインターチェンジから乗って、東京方面から来た時は既存のサービスエリアから降りることになります。これを始めた時に、大型車も通行できるようにするのであれば、その4方向全て大型車にしなければならぬだろうというのが1つ課題としてあります。ただ、ご存知のように既存のサービスエリアは、周辺が住宅地ということもあり、あそこに大型車を呼び込むことが実際できるのかどうか、ということで、基本的には大型車は出入りできない方向で協議を進めております。また、既存のサービスエリア周辺のいくつかの大きな工場全てに聞き取り調査をしたところ、それぞれの工場にはかなりの大型車が入り込んでいるのですが、実際には、そこに入出口ができて、基本的には高速道路を使わないような範囲での物流をしているということも一つございました。そういった周辺の状況、既に立地している企業の意向等もありまして、確かに中里委員さんがおっしゃるように、将来的にはフル方向フル化というのが理想的ではあるのですが、蓮田市の周辺の現状を踏まえますと、当面は普通車対応という形で進めさせていただきたいと考えております。

(中山会長)

住宅地という問題もありますから、なかなか難しいところですか。

(渡辺総合政策部長)

もう一点のほうで、今ハード的な部分で都市整備部長からお話がありましたけれども、地方創生関連で規制緩和という部分がどうなって来るのかという部分について。今お話がありましたように、この件に関しましてはハード的な面で難しく、すぐに規制緩和という形にはなかなか難しい面があるかと思えます。また他の事業についても、地方創生だからといってこれが規制緩和されるということについては、今のところわかりません。

(中里委員)

ありがとうございます。

(中山会長)

いろいろな制約があるとなると、やはり企業誘致の質ですよね。高付加価値とかどこかに書いてあったかと思うのですが、どのような企業を誘致するのか、そこら辺もかなり明確に設定しておいた方が良いのかなという感じがいたします。他に委員の方、何かございますか。はい、お願いします。

(寺澤委員)

これは本当に素人考えなのですが、企業誘致について、高虫地区を今開発しているということですが、こちらの近くに清水工業団地などがあります。規模的にはかなり大きいものを計画しているのですか。

(細井都市整備部長)

現在進めております高虫地区の産業団地については、今、県等の機関と協議中ですが、25ヘクタールの規模で産業団地を造成するという事で計画が進んでおります。清水工業団地が5ヘクタール位ですので、その5倍程度の大きさの産業団地を造るということで進めております。

(寺澤委員)

既に興味を示してくれる業者はあるのでしょうか。

(細井都市整備部長)

25ヘクタールの規模ですので、市街化区域にして工業専用地域的な土地利用をするということで進めているのですが、市街化区域にするにあたって区画整理等基盤整備が必要になってきます。その基盤整備を行って開発したいというディベロッパーさんが、何社か既に市役所に進捗状況を確認しに頻繁に来ています。市としては、事業の進捗状況など情報をなるべく提供して、最終的にはそういったディベロッパーさんの中から事業提案を受けて、市の方向性と合致するディベロッパーさんに基盤整備事業を進めていただくということで今進めております。

(寺澤委員)

わかりました。

(中山会長)

その他に何かご意見ございますか。はい、お願いします。

(廣本委員)

施策の2番目に、特産品の振興支援事業というのが出ているのですが、「支援」ではなくて、もう本腰を入れて何かを「創る」ということは考えられないのでしょうか。ちょっと「支援」では弱いのかなと。例えば、私達が蓮田のものを何か持ってお土産にしてどこかに行こうとした時に、吉澤さんのところの梨がなっている時はいいですが、年中ある訳ではありません。梨を使ったものが例えば果実酒になって年中あるとか、又は洋菓子や和菓子になって年中あるとかというような工夫は今後ないのでしょうか。梨にこだわらず蓮田の名品というのを創っていこうというようなことは、どこかが中心になってプロジェクトを立ち上げて皆と一緒になくてもいいから、市のどこかが担当して行うというような力強さが無いとなかなかできないのではないかなと思います。このたたき台を見て、ちょっと弱いかなという感じがいたしました。

(中山会長)

もっと積極的に。支援ではなくて、攻めの特産品創生事業とかですね。

(廣本委員)

ええ、せっかくサービスエリアができて年がら年中蓮田のものはこれですという、そのように展示できる蓮田のお土産物のコーナーが今の段階では作れそうもないという感じがいたしましたので、ぜひそれを作っていただければありがたいと思います。

(中山会長)

先日私共の大学でこども大学というのを実施させていただきまして、梨が非常に良いものですから、梨を使ってどのようなものを作ろうかと、他の市町村さんの取組をご紹介しますながら、子ども達にいろいろと考えていただきました。そのような事業などを恒常的に、継続的に、一回で終わらせるのではなくてずっと実施していくような取組みが必要だというご意見ですね。これは市のほうから何かアイデアとかございますか。特に今のところはまだ予定は無いですか。

(廣本委員)

この前ご質問をして蓮田市のB級グルメは何と聞いたら、スパゲティとお返事をいただいて、近所に聞いてみたら誰も知らなかったというのもあります。何かもう少し力を入れた方が良いのでは。

(渡辺総合政策部長)

特産品については、商工会の特産品普及委員会の中で、検討をしております。古代米で作ろうとかいろいろと案は出たのですが、なかなか実現していないという状況がございます。前回特産品が今のところ梨だということで、梨は寺澤委員から木が随分切られてきているお話もございましたし、廣本委員からはお酒のお話があったかと思えます。お酒につきましては、同じ「地場産業の振興」という施策の中に「ふるさと納税記念品事業」というのがありますが、梨のシーズンが終わってからは、お酒を返礼品として選ぶ方が伸びて参りました。蓮田市のお酒については特徴的な2種類のお酒がありますので、お酒を返礼品とするふるさと納税が今伸びてきている状況でございます。

(廣本委員)

おそらくそういうものを何か一生懸命になって創り出すということになると、

工場ができたり、そこで就業する人も増えたり、そこで住む人も増えたり、また蓮田が有名になるようなものがどんどんできたりとなります。いろいろなことに関係してくることだと思えるのです。これはある意味で市のどこかのセクションがプロジェクトを作っても立ち上げて、蓮田を代表するような特産品かお菓子か分かりませんが、いくつか作られていく方向で永続的にお土産品か何かを作っていくということを政策のテーマの1つにしても良いのではないのかなというふうに思います。

(中山会長)

「地場産業の振興」というところでは、1番目のふるさと納税記念品というのが非常に密接にかかわってきていますね。また、梨とかお米とか農産物というのはかなり地域性や土地、テロワール（生育環境）に影響されますので、これは蓮田を代表する、蓮田ならではの味などを比較的作り易いのかなと、そんな感じもいたします。他に委員の皆様何かございますか。はい。

(寺澤委員)

白岡菖蒲インターができたと思うのですが、白岡菖蒲インターを利用するために蓮田を通って行く人もいると思います。今言ったお酒とか特産品を売る道の駅みたいのがあったらいいなって、ちょっと前から思っていて、平野のほうに住んでいるので、どうしてもあの辺りが寂しくて仕方がないので、今道の駅が凄くはやっているの、何かその辺で特色のあるものを売ったら、もっと市外の方達も利用してくれるのではないかなと思います。

(中山会長)

道の駅事業は今のところ無いですかね。道の駅っていうのは別にインターとかサービスエリアとか関係無いですよ。別にどこでも構わないですよ。

(寺澤委員)

造るならあの場所をお願いします。

(細井都市整備部長)

そうですね、道の駅は基本的に24時間使用できるトイレと、いくつか義務づけられるものがある、その他に付随していろいろと販売するものを行っているという事業ですね。

(中山会長)

総合戦略のどこかに入れてほしいですね。道の駅となると、新たな雇用と地場産業の振興になるのでは。

(渡辺総合政策部長)

道の駅とかまではいかないのですが、施策の2番目に「新サービスエリア整備事業」というのがあります。これに付随しまして、農産物直売所の活性化施設を検討しております。

(寺澤委員)

平野の方からだと場所が遠いです。

(中山会長)

サービスエリアだとどうしても高速道路を使う人しか買えないというデメリット

ットがあるので、そういう意味では「新サービスエリア整備事業」に入れ込むのではなく、「地場産業の振興」とかの施策に1つの事業として入れて下さるとよいのでは。

(細井都市整備部長)

サービスエリアにつきましては、ネクスコ東日本のほうで、建物をかなり大きな、海老名級のような大きな施設を考えているようで、完成の際にはその中に地域の特産物のコーナーも造って、蓮田市から蓮田市の特産品を提供していただきたいと、そんなお話もあります。併せて、これまで高速道路には外から人を入れるなどというのが国の今までの方針だったのですが、今年になって国が方針を変えまして、使える施設は外からも使ってもらった方が良くはないかと。従いまして、これまでのサービスエリアでは、そういった外の駐車場とか造っていませんので、なかなか転換していくことが難しいのですが、今整備している蓮田サービスエリアにつきましては、外来の方の駐車場も設置して、広く中の施設を使っただけのようにしたいというような話も伺っております。そういったコーナーと駐車場をセットにすることで、蓮田市の事業展開に非常に寄与していただけたらと思っております。

(中山会長)

ありがとうございます。どうぞ。

(吉澤委員)

今サービスエリアのお話があったのですが、菖蒲のサービスエリアに行ったことがある方はいらっしゃいますか。地場産が何もありませんよね。東京バナナが売っていて、信玄餅が売っていて、という状況ですよ。

(寺澤委員)

コンセプトは、全国のもので買えるというものなのですよ。

(細井都市整備部長)

菖蒲につきましては、圏央道が高速道路の位置付けではないですね。一般国道の有料道路という位置付けで、従いまして先程言ったパーキングも外から来た人が止める所は3台分ぐらいしかなくて、要は外からの人を考えてないというか、先程言った方針とはちょっと違う主旨で作られていますので、そういったことでもなかなか地場産の産業というのは、計画した時にはまだ無かったのかなという印象はあります。

(中山会長)

ありがとうございます。産業、雇用につきまして何かございませんでしょうか。はい、お願いします。

(吉澤委員)

(3)の「農業の支援」の施策ですが、土地改良とか新規就農とかはやはり市役所でないとできないことなので、ここはぜひ頑張ってくださいなのですが、2番目の事業である「環境に優しい農業への取り組み」というのは、市役所が頑張ることではなくて、私達農家個人が頑張ることであって、振興センターの普及員の方と連携して普通行うものですね。そのため、ここにはいないのかなと。他にもいっぱい事業があるのでこれ位は飛ばしていただいて他の所に力を入れていただきたいなと思います。

(中山会長)

ありがとうございます。やはり優先順位というのがありますからね。

(吉澤委員)

そうですね、いろいろと盛りだくさんなので、ここは違うのかなと。

(中山会長)

他にご意見ございませんでしょうか。田口委員は何かございますか。

(田口委員)

先程出ていた特産品というところでちょっと余談になるのですが、3日位前に7チャンネルの「ガイアの夜明け」という番組で、地名をブランド化するという事で「のれん会」という会が特集されていました。北海道の夕張市の隣にある市について、やはり特産品はメロンであって、ただ肉が厚くて実がそんなに薄くないという中で、メロンが収穫できる時期に関してはメロンを販売することができる。先程も話が出ていましたけれども、それ以外の時はメロンを販売できないという状況です。ではこれをどうやって常時商品化するかというところで、その「のれん会」に加盟している全国のいろいろな、例えばアイス屋さんだったりパン屋さんであったり有名な所が加盟しているのですが、その加盟しているお店に持って行って、このメロンを使った商品を何か考えてくれないかと依頼します。そうすることにより、そこに加盟しているそれぞれの専門のお店がそのメロンに特化したものを考えます。そして、専門のお店は、それをそのまちで販売し、それをまた自分の所の商品として販売し、地名というものがブランドとして広がっていったという事例が紹介されていました。蓮田でも梨について、収穫以外の時期はどうするのか、どのように他のものに加工するのかという時に、やはり協力してくれる企業さんがいないと思いますので、このような「のれん会」などにも、ちょっと調べて委託しても面白いのではないのかなと。

(中山会長)

そうですね。予算もありますけど検討する価値は大いにありますね。こういった全部蓮田市で賄うのではなく、外部の企業を活用するとか、そこら辺が今はちょっと無いですね。金融機関などはあるのですが。民間企業、イベント会社とか情報集約会社みたいなものですかね、のれん会というのは。サイトが確かありましたよね。はい、その他に何か、高橋委員のほうからは何か。

(高橋委員)

さっきの話になってしまうのですが、せっかく蓮田市のマスコットキャラクターのはすびがいるので、蓮田市役所のほうでいろいろと物品の販売をしていると思うのですがけれども、市民の中でも欲しいけど手に入らないというような意見がいっぱいあります。そういったはすびなどももっと利用して、今のサービスエリアでも何でも、もうちょっと置いていただくと、高速を利用している人になってしまいますが、そのはすびがいろいろな所に行ってくれたりして、少し蓮田を有名にしてくれるのかなとは思っています。

(中山会長)

このキャラクターは、作ってもなぜ手に入らないのですか。

(渡辺総合政策部長)

前回の会議の時に島田委員から、近隣に比べると蓮田市はシティセールスが弱いというご指摘をいただきましたので、次の4ページ(1)の「蓮田市の魅力発見と発信」という施策で、シティセールスにつながるようなものについて、具体的事業として触れさせていただいております。今、はすびいがなかなか買えないというお話がございました。現在は、市の商工課等で販売して、あとはサービスエリア、イベント等での販売という形になっているのですが、今後は観光協会のほうで販売を積極的に行うことになっております。市のほうで販売をするというよりも観光協会で販売するという方向に少しずつシフトしておりますので、そういったものが市内の店で気楽に買えるような形に、はすびいの販売についてはなっていけばいいのかなと考えております。

(廣本委員)

はすびいの話が出たからちょっと聞きたいのですが、どこが担当しているのか知らないけれども、もうちょっと動きが良くなりませんか。この間から手を引かないと動けないような状態が続いているのを見ていまして、ふなっし一程飛び跳ねなくても良いけれども、もうちょっと動けるものでないかね、なかなか子どもの人気も今一上がらないのかな、改造できないのかなと思ってね。どちらの部署ですか。考えないと、それは。

(渡辺総合政策部長)

広報広聴課で担当しておりまして、動きがある方が、人気が出ているというのは確かにございます。ただ、あの形で今の造りをしているものですから、動きを良くするとすると、材質から何から全部変えていかないと難しいのかなというところですよ。

(中山会長)

なかなか1番にはならないかも知れません。

(渡辺総合政策部長)

現在50位前後、今ちょうど順位が消えたところなのですが、目標とする50位前後にはいる状況にあります。

(廣本委員)

すみません、脱線でしたかな。

(中山会長)

島田委員のほうから何かございますか。

(島田委員)

私は、県の総合戦略との整合性的なところの視点が入ると思うのですが、蓮田市のこの部分で目玉となる事業はやはり企業誘致だと思います。ここの内容の所では、根金と高虫を出していただいているのですが、ちょっと私も不勉強で恐縮なのですが、他市町では企業誘致の助成制度というのを作っているのですけれども、蓮田市さんはございますか。

(岩瀬環境経済部長)

商工課で企業誘致を行っていまして、これからいろいろな税の優遇なり支援ということで、県と同じような形で、制度を作っていきたいと考えております。

一応今のところは、目前にございます高虫の工業団地のほうを目標に、ということを進めていきたいと考えております。

(島田委員)

わかりました。そうしますと、高虫に限定しての助成制度で検討するというイメージになるのですか。そうではなくて、蓮田市の高虫以外のどこでも来れば対象になるようなイメージ、それも含めて検討するということですか。

(岩瀬環境経済部長)

広く検討しています。

(島田委員)

今後検討されるということであれば、助成制度についても検討するという内容を内容に入れ込んでも良いのかなと思いました。企業誘致は、他市の事例で恐縮なのですが、新たな産業団地の整備をして企業誘致をするケースと、あとは既存の所の種地をうまく活用して、そこを県とうまく連携をするというケースがあります。県にも企業立地課という所がありまして、そこが企業誘致を担当しているのですが、市町村の方と連携をして、埼玉県に企業を移転したいという相談が県庁に入った時に、こういう条件の所を探しているみたいな相談の中で、蓮田市にこのような良い場所がありますよというような情報があれば、県を窓口として蓮田市につなぐ、というのがあります。既存の部分もうまく活用した中での企業誘致というのも少し検討する価値はあるのかなと思いました。

(中山会長)

どうもありがとうございました。これは、実際に企業で働かれている浅田さんのご意見を伺いたいのですけれども。

(浅田委員)

ありがとうございます。まず一個、企業誘致の雇用を創出することと人口の流入ということを考えると、やはり企業誘致というところなのかなというところなのですが、商業施設の誘致という考えは今の所は無いということですか。というのは、三郷市などは、ららぽーとがあつて、コストコがあつて、それらの前にはマンションがバンバン建っているではないですか。吉川市も近隣で人口が増えているということもありますけれども、現状は商業施設を考えていらっしやらないということですか。

(細井都市整備部長)

今企業誘致ということで蓮田市が取り組んでいるのは、先程島田委員からもお話がありました、市が先導的に開発に携わって進めようとしている高虫地区、それともう一点根金地区です。根金地区は、122号バイパスの沿線、白岡市との境の元荒川の所です。これにつきましては、圏央道の白岡菖蒲インターから1.5キロの距離ということで、これまでも開発ができる区域に指定しておりました。ただ当時指定した時の考え方で、雇用が生まれるように製造業に限定していたのです。これまで、それで幾つか製造業の立地がされているのですが、昨今の需要が流通業、流通倉庫業からの開発ができないかという相談が非常に多くなって参りまして、市としましても1年ほど前から取り組んで、この10月1日からそういった流通倉庫業の開発も認めるように土地利用を変更いたしました。その結果、早速、3ヘクタールから5ヘクタール単位でそういった流通倉庫業の立地の相談をしている企業が何社かございます。一応こちらについては民間を

活用して、そういった民活の需要があるのだから、先程言われた優遇税制等は考えずに、それで進めて行こうとしています。

高虫のほうについては、先程言った市の政策として産業団地を造っているので、そういった税制のことも少し考えていこうということで取り組んでいるという状況でございます。

商業につきましては、大規模小売店舗立地法等の法律も変わりました、今調整区域では非常に立地が難しいです。一時期は調整区域にそういったものをどんどん造るといのが国の政策だったのですが、今は逆にそういったものはできないというふうになっておりまして、そういったものを計画するのであれば既存の市街化区域に、若しくは新しく市街化区域を造ってからということになります。蓮田市としては、今そのようなことは取り組んでいないので、現実問題としてはなかなか難しいところがございます。ただし、駅周辺の商業区域をどうするかという議論はまた別途あるかとは思いますが。

(浅田委員)

ありがとうございます。白岡菖蒲インターチェンジができて、30分短縮できたというのは、非常に利便性の面でも、もう他市にもPRできる場所だと思います。そこまで行くまでの道がやはり寂しいところもありますので、さっき道の駅の話もありましたけれども、ぜひその辺も考えてもらいながらのほうが良いのかなと思います。

(中山会長)

そうですね、道の駅というのも一種のお店というか、商業施設ですからね。他にこの基本目標1に関しまして何かございますか。大体ご意見が出尽くしたかなという感じがいたします。

それでは基本目標2のほうですね、「新しい人の流れをつくる」について。企業の話が大分出ましたが、仕事での人の流入ではなくて、もうちょっと蓮田市の魅力とか駅周辺の観光とか、あと移住・定住という4つの施策に分かれておりますが、これにつきまして委員の皆様方から何かご意見ございますか。はずびいにつきましてはもう既に出たかと思えます。

(廣本委員)

この中で4番目に「移住・定住の促進」という施策があるのですが、それぞれの相手が人相手になっている書き方になっています。蓮田のまちを見てもなかなか良いまち並みだなど思う所というのは、造っているのは建築事業課なのですよね。そのような、200世帯とか500世帯という土地を買って、そこに戸建て住宅を建て、そして売るという事業がここには無いように見えたのです。最後の4番目の黒浜地区の土地区画整備事業というのがそれを意味しているのかどうか、ちょっと分からないのですが、要はそういう事業者が入り込みやすいように整備して、そこにまちを造らせるというような事業はこの施策の中に入っているのでしょうか。

(中山会長)

いかがでしょう、これは。お願いします。

(細井都市整備部長)

正にこの4番目の「蓮田都市計画事業黒浜土地区画整理事業」が該当します。この地域は元々昔ながらの細い道路で、なかなか住宅を建てるのが難しい所だったのですが、このうち33.7ヘクタールについて区画整理をいたしまして、

もう再来年には換地処分ということで事業を完了させる予定です。今正確な数字を持っていないのですが、ここで2,000人以上増えておりますし、まだまだ農地で残っている所も、最近民間開発業者が土地をさらに開発して、10軒の戸建て住宅を販売したりとかということを進めておりますので、人口の増加にはかなり寄与していると考えております。

(廣本委員)

ここちょっとそのように文章を変えた方がいいのでは。これだと少しわかりにくいので。

(中山会長)

住む場所なのかどうかですらわからないということですね。住宅なのかどうなのかもわからない。ここは書き方を変えた方が良いですね。他に何かご意見ございますか。お願いします。

(吉澤委員)

施策(1)に「原付バイクオリジナルナンバープレート交付事業」があるのですけれども、たぶん誰も食いつかないのではないかなと、今の状態。実施するとしたら、他の事業が上手く行って、蓮田というものが知れ渡ってから作るべきであって、ここに載せる段階ではないのかなと思います。

(中山会長)

なるほど、これはボツですね。はい、どうぞ。

(渡辺総合政策部長)

こちらにつきましては、先程はすびいのお話がありましたけれども、ナンバープレートにはすびいを入れるということで検討をしております。他の市でもバイクに地元のキャラクターとかを載せているものがあるかと思います。

(廣本委員)

できるのですか、数字だけのところに。

(渡辺総合政策部長)

ナンバーの中にはすびいの図柄を入れ込むとか、そういった形で内容が詳しく書いていないもので、わかりにくかったと思いますが、蓮田市とはすびいのPRも兼ねまして、今検討をしております。

(吉澤委員)

わかりました。

(中山会長)

そのように書いてくださるとありがたいですね。ただ蓮田ナンバーになるだけかなと思っていましたから。

(吉澤委員)

あと追加なのですが、(2)の施策に「貸農園事業」というのがありますが、やはり農地がどんどん減っていく中で人がどんどん増えていくと昔帰りではないですけれども、農家を、畑をやりたいという人が今すごく多いのですよね。

ただどこで行っているのか、どこに行けば窓口があるのか、農協へ行けばいいのか、市役所なのかという方が本当に多いので、やはりこういうことはどんどん、観光になるのかわからないのですが、PRしていただきたいなと思います。越谷に貸農園ですごく儲かっている人がいるのですよね。その人は最初市役所に行ったら、ばかしているのではないよと一蹴されて、くやしくて自分で本気で行ったら、逆に市役所がやって来たという位凄いところがあります。良い成功例もあるので、このようなことはどんどんやっていただきたいなと思います。

(中山会長)

これは優先順位が高いということですね。他に何か。

(廣本委員)

質問なのですが、心配なのは(2)「蓮田市への観光の促進」の中に、「サイクリングコースによる蓮田再発見PR」と書いてありますね。蓮田再発見PR。凄く良いことだと思うのですよ。歩くのも良いですし、サイクリングも。ただ蓮田に、自転車走って大丈夫な状態の道がまだまだ少ないのですが、これかなり大変なことをポンと乗せてきたような気がするのですが、道路事情的に大丈夫なのですか。

(中山会長)

どのようなコースを想定しているのでしょうか、川沿いですか。

(中里委員)

見沼代用水ではないですか。

(中山会長)

そこにはもうあるのですか。

(中里委員)

行田までずっと続いている道があります。

(廣本委員)

では、これ「新」ではなく、もう既にある道を使いましょうってことですね。

(中山会長)

あるのを皆知らないから掘り起こそう、そのような話です。

(中里委員)

サイクリングロードとしては機能していない。

(中山会長)

それを機能させるというのが事業として新しいということなのでしょうか。

(岩瀬環境経済部長)

今のサイクリングコースですが、以前にも職員提案の中で職員により作ったサイクリングルートがあったのですけれども、実際に実施するには時間的な問題や、先程もありましたが道路事情の問題とかもあります。今回のお話は岩槻区や伊奈町から、観光事業も含めて交流していこうという動きがありまして、その中でレンタサイクルなどを活用しながらできたらいいのかなということ

始まったものです。サイクリングコースというと、想像するのが競技用の自転車などと思いますが、この自転車についてはママチャリ位のものに近い話だと思います。実際には、今のお話の中では既存のものなのか新しいものなのかということですが、一応新規事業ということで良いと思います。

(田口委員)

貸自転車事業を行うということですか。

(事務局)

こちらにつきましては、岩槻区さんですとか伊奈町さんでレンタサイクル事業を実際実施している状況でございますが、蓮田は行っておりませんので、連携して実施できないかという部分がございます。サイクリングコースにつきましては、県と一緒に既に市内にルートを設定しており、結構看板があつて番号がついているのですが、ルート自体はなかなか知られていないという状況がございます。そういったことや他市町との連携も含めて、こちらは新規という形になっております。

(中里委員)

コースというと、1つのコースというイメージにとられてしまう。

(中山会長)

そうですね、誤解を招くような書き方ですね。他に何か。お願いします。

(田口委員)

「蓮田市の魅力発見と発信」という所で、前回の会議でも出たかと思うのですが、蓮田の駅には鉄道ファンの聖地「ヒガハス」と、あとちょっと離れた所になるのですが、「寅子石」という所もあつて、その2つが何か魅力の発信として新しい人の流れをつくるというところで何かあつても良いのかなと思います。

(中山会長)

イベント的なものですか。

(田口委員)

例えば、さっきどこかに書いてあつたのですが、映画の中に入れてPRをするとか。

(中山会長)

フィルムコミッション誘致ですね。

(岩瀬環境経済部長)

今の映画の話なのですが、今月の広報の中にも今回地域PR映画というものを製作するというを特集しております、蓮田で初めて実行委員会という形式でPR映画を作っています。内容としては農業です。あとさっきちょっと出ましたけど酒蔵ですとか、蓮田の全景ですとか、第1弾としては1つのストーリーの中で蓮田を紹介していくという場面がございます。ただ、今のヒガハスとか個別のものがどこまで出るかというのはあるのですが、一応蓮田にはこのような特徴があるということが若干出せるというふうに思っています。ですから、今回第1弾ということで考えていますので、今後PRフィルムを第2第3弾と進め

ていきたいと思っております。

(中山会長)

これはぜひ具体的な地名とかスポット名とか、寅子石とか、そのようなものを書かれると非常にビジョンとして見えやすいかなと思いますので、できるだけ抽象名詞じゃなくて固有名詞とか具体的な名詞を文章の中に盛り込んでいただければと思います。他に、はい、お願いします。

(寺澤委員)

新しい人の流れをつくるということなので、これからできるハストピアの施設で、何か大きい催し物を実施して市外からも人を呼べるようにできるのでしょうか。

(中山会長)

ハストピア事業というのはどこかに掲載していますか。まだないですか。はい、お願いします。

(小林生涯学習部長)

12ページに「ハストピアサポーター事業の推進」という形ではありますが、こちらについてはソフト事業として市民の方との協働の事業でハストピアを活性化しようという取組みをしていきますということで書いてあります。来年10月15日にいよいよハストピアがオープンするということで、今イベントという形で幾つか事業を開始しております。名前を知っていただくという形で行っております。そのような中でせっかく634席のホールもできますので、できるだけ、市民も当然ですけど周辺の市町村にも使っていただいて、稼働率を上げるというような形で、市民の方達の発想で自主事業を組み立てていくような形で掲載させていただいているものです。

(中山会長)

はい、ありがとうございます。では優先順位が高いということですね。他にございますか。はい、お願いします。

(田口委員)

(4)の「移住・定住の促進」という所で、ちょっと方向が変わるかも知れないのですが、蓮田駅西口第1種市街地再開発事業ということで、西口再開発のビルができると書いてあります。公共施設の整備を行う、或いはここはマンションになるでしょうから住居としての整備を行うということですが、あとは企業向けの貸事務所的なものがあると、本社の機能をそこに移転しようとか、そういった新しい人の流れを作れるのかなと。近所にある飲み物屋さんに去年行った時に、あそこの事務所へ移転をしようかと思っている。ただ250名位入れる箱が蓮田市の中には無いという話を聞きましたので、このビルの中に貸事務所的なものがあると通勤のために蓮田に来る人もいるでしょうから、企業の誘致もできるのではないかと思います。

(中山会長)

そうですね、公益施設だけではなく、民間施設ですよ。これはいかがでしょうか。

(岩崎西口開発部長)

現在の計画では、先ほど委員さんからお話がありましたように、マンションが主体になりまして、1階がスーパー、2階が公益施設、3階以上から27階建てということで、マンションの戸数にしまして234戸となっています。ただし、現在、建設費のほうが高騰しておりまして、その計画の収支が合わないような状況になっていますので、今その計画を見直している状態になっております。今お話がありましたように、企業の誘致ということは現段階では考えておりません。

(中山会長)

ありがとうございます。需要があるにもかかわらず供給が無いという状況なのですね。他に何かございますか。はい、お願いします。

(高橋委員)

(3)の「駅周辺の賑わい創出」という所で、今東口も西口も開発ということで、本当に駅の周りだけは良くなっているのですけれども、駅からどこかへ行くとか、駅まで行く道が、不便というか狭いというか。他所からいらっしゃる方も、蓮田は駅の周りが良くなっているけれども、周りの道が今一だよねって。それでこちらに住むのをやめて、隣に買いましたという方も何人か聞いたりしていますのでその辺がもうちょっと。お金の問題もあるとは思いますが、できればその辺をしていただくと、もうちょっと人が入って来るのかなって思います。

(中山会長)

セットバックとか、道を真っ直ぐにするとか。これはなかなか難しいとは思いますが、いかがでしょうか。

(細井都市整備部長)

市でも、例えば蓮田駅の西口地区につきましては、全体的に区画整理を実施したらどうかというので取り組んだことはあります、過去に。ただ、どうしても住宅が密集してしまっていて、そこで区画整理をするとすると殆どの家が移転といいますか、少しずつとかそういったことが発生し、事業費が莫大になってしまうということで断念した過去のいきさつがございます。一応西口につきましては、昭和の初期なのですが耕地整理というのが行なわれております。ただ当時の耕地整理ですので、幹線が5メートル、一般の住宅地が3.5メートルという道路の広さで整備されております。一応形としては基盤の目のような形にはなっているのですが、ただその道路が建築で後退しても4メートルまでしか広がりませんので、今の車はかなり大きくなっているのです、どうしても狭いという印象が残ってしまうというふうに思います。市街地については今ある道路を着実にそのように建築後退で4メートルに広げていくしか現在のところは手段がなかなかないというような状況でございます。

(中山会長)

ありがとうございます。その他、基本目標2についてはこの位で宜しいでしょうか。はい、お願いします。

(島田委員)

すみません、細かいことで恐縮ですが施策(2)で「蓮田市への観光の促進」という表現になっているのですが、私の個人的なイメージだと蓮田で観光というのはあまりイメージが湧かないところです。例えばですが、内容のところで

交流人口の増加を図るといような表現がかなり出て来るので、交流人口みたいな言葉で置き換えたらどうなのかなと思いました。観光で売り出していくということではないのかなと。

(中山会長)

では蓮田市での交流の促進とか、そのような感じですか。

(島田委員)

そうですね。あとは交流人口の増加とか交流人口増の促進とか、いろいろと表現の仕方はあると思うのですけれども、どうかな、すみません。

(中山会長)

そうですね、これはちょっと無理がありますね。内容もほとんど交流ですものね。他に何かありますでしょうか。宜しいですか。では基本目標の3番ですね。大分時間も押してきましたので、3番のほうに移りたいと思います。こちらは量が多いのですが、この中で優先すべきものについてぜひご意見いただきたいのですけれども、これだけ全部実施しますと、ものすごい量になりますので。いかがでしょうか、委員の皆様方。何か浅田委員のほうから優先してほしいというのは。

(浅田委員)

はい、ありがとうございます。先ず施策1の「結婚、出産への支援」ということで、「婚活支援事業」とあるのですが、これは市役所が主体となって実施されるということで宜しいですか。

(渡辺総合政策部長)

この前浅田委員とお話をした時に、JCさんもこれを積極的に検討されているとお聞きしました。婚活を完全に市だけで行うというのはなかなか難しい面がありますので、民間の専門の方などにお任せし、市も一緒に連携し、PRとかそういった部分についてはお手伝いしながら一緒に行っていくという形になるかと思えます。

(浅田委員)

ありがとうございます。うちの社員も今婚活に励んでいて、非常に良い例として宮代のほうに新しい村というところ、ご存知ですよ、で婚活イベントが実施されています。そこでは、3つのグループ…収穫体験するグループ、調理をするグループ、一緒にご飯を食べるグループに分かれて、回りながらグループを分けて婚活を行っているらしいのですが、前のページで貸農園事業とかそういったものもありますので、政策調整課さんだけでなく農政課さんや商工課さん等も交えながらの何か新しい婚活イベントというのを、街バルという案もありますけれども、宮代の新しい村という所のものが、非常に評判が良いということなので、ぜひ参考にしてもらえればと思います。

(吉澤委員)

去年さつまいもで婚活を行ったはずなのですよ。あとむさしの村でもバーベキューで確か婚活とか行っていたと思うので、ちょっとでもいいですよ。規模が小さくてもいいので、そのようなものを何回か実施すると全然違うのかなと思います。

(中山会長)

2行だと寂しいから、もうちょっと宮代の新しい村などを参考に、そういう文章を、あるいはJCと連携を取りながらなど、何かそういうふうに具体的に書いていただければ。

(事務局)

この戦略等の作り方の部分ですが、今回は、内容につきまして一応全ての事業を皆様に議論していただくために、このように記載をしております。今の時点でも足りない部分があるのですが、先程説明した県の総合戦略では、事業名だけを載せております。事業名については全てを載せる方向ではいるのですが、事業内容につきましては、どのように掲載していくのか現在検討しています。

(中山会長)

これは非常に優先度が高いということですね。

(事務局)

優先度が高い事業をご指摘いただければと思います。

(廣本委員)

最近私が体験したばかりのことをちょっと。子どもを育てるというのは女性としても一番大変だろうと思うのですね。女性がいらっしゃるから、私より詳しいのかもしれませんが。先日蓮田駅でたまたま電車に乗りましたら、電車の中のドアの一番端っこに女性が赤ん坊を抱いていて、今は赤ん坊というのは抱き合わせみたいにして抱くのですね。抱くとか縛ってしまうのですね。で、走り出してしばらくしたらその赤ちゃんが泣き出したのですが、あやし方が分からないみたいなのですね、その若いお母さんが。で、最初のうちは涙拭いてあげたりいろいろとしていたりしたのですが、最終的にどうしたかという、赤ちゃんをぎゅっと抱きしめたまま寝たふりをし始めたのですね。延々と35分位、池袋駅に着くまで寝ておりましたから。その間赤ん坊はギャーギャーギャー泣いている訳ですよ。誰か知っている得意なお母さんみたいな人がいれば注意してあげたりできたのですが、周りの人も何もできず、大変苦しい思いをしたのですね。赤ちゃんの育て方が分からないまま産んでしまった子というのは意外と多いのではないのかなど。もっとも最初の子ですから皆分からないのですが、とはいえ今は核家族になっていますから、家に帰ってもおそらく教えてあげるおばあちゃんやお姑さんやお母さんがいないのではないかと。こうなるとこの子はおそらく家に帰ってもえらい大変な苦勞をするのではないかなというように思いをしたのです。そのような体験をした上で見てみると、そのようなことを教えてあげるのはこの中には無いですよ。相談会みたいのはあるけど、そういうのとはちょっと違ってですね、赤ちゃんが泣いたらなんで泣いているのかということを知ってあげて。理由を伝えてあげるといふようなことから始めなければいけないかもしれませんね。そういう子達はどのようにしているのだろう、ノイローゼになってしまったりするのではないかと思う位な感じがしましたので、このようなことを蓮田だけは取り上げて、解決してあげる会を市が主催しているとか、また誰か昔の経験豊富な女性たちをたくさん用意してあげて、そのような会を作ってあげるとか、そのようなことが必要なのではないかと。ここでいろいろな物の情報提供をするとか雑誌を作るとか発行するとか、そのようなものとはちょっと違う分野だと私は思って、もっと臨場的な場設営というのはどうなのだろうか。文字で書いたらどのようなになるの

かちょっとよく分かりませんが。そのようなものが蓮田にあったら、これはまた蓮田というのは子育てが楽しくなる場所ということにもなるだろうし。

(小林生涯学習部長)

こちらのたたき台には表記がされておりませんが、市内におきましては子育ての経験のある人が、愛育会という600人を超える組織を作っていただきまして、赤ちゃんの生まれたお宅に家庭訪問をしに行ったり、サークル活動的なものを親身になっていろいろな面で相談したりするような活動をしていただいています。その愛育会の方は市民の方達です。その方達の相談に乗る方達は保健師さん等がございますので、こちらは掲載しておりませんが、実態としては地域活動といいますか、受け持ちの区域を決めていただいたりして一生懸命行っているところがございます。

(中山会長)

なるほど、それはもう支援してらっしゃる訳ですね。

(小林生涯学習部長)

ええ、現在も既に実施しているところです。

(中山会長)

それでしたら、愛育会のメンバーを増やすとか具体的なものを。

(寺澤委員)

その愛育班のことでちょっと。私は子どもを産んで途中から蓮田市に転入しました。子どもの手続きとかで市役所に行った時に愛育班の説明はあったのですけれども、その説明が1回きりで、愛育会に特に関わったことが一度もなく、子供が大きくなってから、そのような団体が活動しているということを知って、何でうちはそのようなものに関われなかったのかと、ちょっと寂しい思いをしました。子どもが産まれた時にたぶんそのような方達がいらしていろいろと行って下さると思うのですけれども、既に産んでしまった人が蓮田市に入ってきた時に、このように欠落してしまう人がいるというのも事実かなと思います。

(中山会長)

それはすごく不平等ですね。

(高橋委員)

すみません、私も愛育班でやらせていただいていたのですけれども、やはり後からいらっしゃった方も情報をいただいておりますのですが、こちらが愛育班でということでお伺いしても、相手の方は愛育班とはなんだろうという状況。それでピンポンしても開けていただけないということがあって、何回も何回も行くと不審者だと思われてしまうな、こっちも小さい子を連れて行くので、愛育班の人間も途中であきらめてしまうということも実はあるのですね。

(廣本委員)

そもそもここに漏れるくらいですからね。

(中山会長)

ここに、項目で愛育班ですか、愛育会ですか、固有名詞をちゃんと入れて、それを支援するというふうに。漠然と子育てを支援しますとかではなく。たぶ

ん(4)の施策の子育てボランティアとか育成支援とかそっちの方ですよ。

(吉澤委員)

うちの妻も今愛育班でばりばり活動しているのですけれども、市役所で登録するのですよね。そうすると市役所の方が来ると思っっている方が凄く多くて、まさか市民が来るとは思ってない。で、居留守を使われたりとか、うちの妻も気を使って土日に行くようにしたりするのですよ、必ずいるだろうと。大体いないのですよね、そのような人は。そのため、市役所でもう一言二言説明をしていただきたいなって思います。地域のママさんが行きますよとか、もう少し、広報ではないですけど、何か。

(小林生涯学習部長)

今お話があった通り、様々な事業といいますか、制度を設けていろいろと実施しているところですけども、やはり蓮田市がどのような支援をしていただけるのか知らないというご指摘をいただくことがあります。そうした面で、例えば5ページにあります「子育て情報誌発行事業」という形で様々な支援の制度ですとか、子育てに関わるような施設の関係とか、そのようなものを網羅し、的を絞って、子育てに関わる転入者の申請があった方にお配りするなど、いろいろな形でPRしていかないと、せっかく行っている事業を知らない、また一生懸命活動している方が玄関も開けて貰えないということでは困りますので、そうした面ではこの情報の発行事業ということで、取り組んでいるところではございます。おっしゃる通り、せっかくの活動を無にしないように取り組んでいきたいと考えております。

(中山会長)

はい、中里委員お願いします。

(中里委員)

保育サービスのことでおうかがいしたいのですが、概ねここに書かれていることは今の制度としてあるものの充実だとか、待遇を良くするということが大体多く書かれていると思います。最近新聞だか雑誌だかテレビだかちょっと記憶にないのですが、千葉の流山か、あの辺の都市に非常に人口の流入が多いということがありまして、その要因は何なのかといたら、やはり子育てがし易いというのが大きな原因とあったのです。その中の特徴の一つに、駅前に保育ステーションを設けて、保育所の遠い近いとかではなく自分が通勤する時に駅前へ行って子どもを預けて、帰って来る時間に子どもを受け取って帰れる、どこで保育されようと、親にしてみれば駅前に行けば預かっただけというシステムがあります。普通の保育料とは別に有料の部分があるらしいのですが、非常にそのシステムが好評だというようなことを聞いたのです。これから考えていく中では蓮田市もそういったことを少し視野に入れて、特に西口再開発でこれからビルを建てるのに、特定建築者制度だからなかなか市が思うようにいかない部分があるのも承知していますし、市民の会議室も必要です。今いる市民も大切ですが、新たな人口の流入を考えるのだとしたら、そのような施設を駅前に造ると、だったら蓮田へ行こうということにつながっていく大きな要因になるのでは。起爆剤としての保育に関して関心を持ってもらえる。なおかつ内容も、蓮田市って保育がいいねってなれば、蓮田で出産しようということにもつながって来るし、人口増にもつながって来る。学校のほうはお陰様で先生方にも教育委員会にも一生懸命行って貰って、今の蓮田市の教育は高い数字にあるというのは私達も非常に誇りに思っているところなので、ではそう

いったところへプラス子育てが付けば、もっと蓮田に住みたいという意向につながって来るのではないかなど。産業団地の方があまりうまくいかないのなら、そういったソフトの面で人を入れるということも考えていってもいいのかなど。施設も人員が必要なことなので急にはできないでしょうけれども、ひとつ視野に入れていくことはできないのでしょうか。プラス思考のほうで。

(中山会長)

こちらは、子ども支援課でしょうか。

(小林生涯学習部長)

今お話があった流山や吉川なんかも保育ステーションを整備して子育て環境を整えているというお話は伺っております。すぐにはなかなか難しいところはあるかと思えます。まずは蓮田市としてはまだまだ待機児童対策としての保育園の整備が目前にある中で、この保育ステーションという考え方につきましては今後検討していかねばならないとは思いますが、具体的な取り組みとしてすぐには、ちょっと難しいのかなというところでございます。

(中山会長)

まずは保育園からというところですね。

(中里委員)

でも保育園も今度見沼町に新しくできて、中央保育園も改修されれば、かなり施設的には充実してくるわけでしょう。既存のものだけ行っていたら新しい人は増えませんよ。新しい人を呼びたいのだから、プラスの思考で考えていかないと、今あることだけ行っていたら他の市町村と変わらないのだから。だったら蓮田へという思いを持ってもらうことまで届かないような気がする。今よりもプラスに考えていくのだったら、何かプラスの施策をしていかないと、人は蓮田を選んでくれないと思うのですよね。そこは発想をもうちょっと変えて、ポジティブにいつてほしいと思うのですけれどもね。無理は承知で。

(中山会長)

なかなか難しいですよ、どうですか。

(小林生涯学習部長)

大変ありがたいご意見です。やはり新しい方の流入増加を図るとすれば、従前に住んでいたまちと必ず比較されながら要望が出される場所があります。ですから今おっしゃっていた保育ステーション等も実際に経験された方またはそういうお話をうかがっている方にとっては、ぜひに、という要望も高いのかなと思えますので、検討させていただければと思います。

(中山会長)

ぜひ予算を通るようにしてください。無理やり作るというのも良いのかもしれませんがね。はい、他に何か。お願いします。

(寺澤委員)

今、放課後子ども教室を平野小で行っているのですけれども、私達中心になっている5人のボランティアのお母さん達で、結構大変な思いをして立ち上げました。まず人材が不足していて、地域にどれだけの人が手伝ってくれるかという情報が全然無いのと、あと施設、学校はじめ、うちの施設は使わないでとい

う感じでした。民間のお宅の空いている所をお借りして行っていたのですが、何せ子ども達は元気が良いので、もう出て行ってくれと言われて、次にトレーニングセンターのほうに移動しまして、そこもやはりお金が掛かるので、運営していくのがなかなか大変で、再度学校のほうにお願いをして、社会教育課さんと一緒にしっかりとした放課後子ども教室を作ろうということで放浪の旅が終わりました。ここに「実施」と簡単に書いてあるのですけれども、市としてはどのようにこれからこの事業を拡大していこうと思っ

(中山会長)

学童とはまた違うのですか。

(小林生涯学習部長)

学童とは違いまして、ここに書いてある通りです。学校の空き教室等を活用させていただきながら民間ボランティアの方が放課後に子どもにいろいろと提供しているというところがございます。今後につきましては、やはり保護者さん達の生活スタイルも大分変わってきているところがございますので、今行っているということでは実施という言葉で終わっていますが、やはり様々な点で拡充していかないといけないのかなと思います。具体的にというお話ですが、では何をこうするというのは、ちょっと今のところは無く、今行っている事業を継続しながら、または更にご要望等に答えてやっていければ良いかというところがございます。

(中山会長)

ありがとうございます。他に何かございますか。お願いします。

(島田委員)

蓮田市の人口ビジョンを考えた時に、転入超過を図っていくということになりますので、そのような中で、やはり子育て世代が埼玉県の特徴として転入超過になっているという状況があります。そのところをターゲットとして蓮田市としても何らかの施策を打っていくということが非常に重要になります。先程中里委員もおっしゃった様に、流山市が非常にこの辺では有名なのですが、その取組というのは本当に10年単位で、着実に積み重ねて来て今があるという話を聞いております。その中で駅前の保育ステーション事業と併せて、いかにそのことを伝えるか。都内の人に的確に伝えることについて非常に力を入れていったのですよね。パパになるなら流山、ママになるなら流山、というキャッチコピーで、大々的に都内でキャンペーンを行って、都内の人に選んで貰ったというような展開なのですよね。そのことと同じような考え方の中で、今この子育て世代をターゲットとした部分というのは蓮田市の要になるのかなと私は思っております。その中で蓮田市の特徴をどう打ち出すか。先程もお話があったように、他とどう差別化をするのかといったところは、入れていったらいいのかなと思います。そのような中で子育てについてはいろいろな事業が今たくさんあって、子育て支援事業というのは行政としても市役所としても本当に手一杯で、新たな展開をするというのはなかなか難しいという状況は私もよく理解をしているつもりではあるのですが、そのようなところは今後のこととして十分検討していただく必要があると思います。もう1つ蓮田市の特徴は教育ではないのかなと私は思っております。具体的に蓮田市の教育がどの程度のレベルにあるのかというのは私にもわからずイメージだけなのですが、蓮田市さんは教育レベルが高いと一般的に言われているような気がします。天野先生を輩出したような、本当に教育レベルが高い所、そういう所を上手く、すでに既存

の中で特徴がある訳ですから、そのことを上手く情報発信をしていく、そのような所を上手く既存事業に補完できるような教育の展開というような所をよく考えていけばいいのかなと思います。事例としては、行田市は少人数学級で売り出しています。羽生市は英語教育で売り出しています。幸手市はアフタースクール、放課後の補充事業で売り出しています。このようなことで教育に力を入れているということを対外的にPRすることによって定住促進を図ろうというふうに今動いています。そのようなことと同じように何らかの蓮田市の得意技というのがあると思いますので、そのところを上手く整理をすると共に、上手く対外的に、市民ではなくて市外の人、特に都内の人とかに上手く伝えていく。そのためにさっき基本目標2の魅力発信というところで渡辺部長もおっしゃっていたように、充実をさせている訳ですよ。ツールをいろいろと考えている。そのような方向は合致してくると思いますので、そういう線で良いのかなとは思っております。

(中山会長)

これは本当に、我々愛育班とかを全然知らないのが問題だと思います。子ども大学蓮田とかも全然知らない人がいる。うちは行っているのですが。そういうのがまとまれば教育市というのですかね。

(島田委員)

蓮田市の教育レベルがどのように他と比較ができるのかわからないのですが、こんなに埼玉県の中では上位にあるのだよということを対外的に示すだけでも、やはり子育て世代の人は教育水準の高い所を求めて行くはずなのですね。そのようなところの発信を上手くしていけばいいのかなというイメージです。

(廣本委員)

広報広聴課長はどのようなイメージを抱いていますか。ぜひ一言。

(大久保広報広聴課長)

今論議の中でいろいろと出ていますように、実は蓮田はいろいろなことを行っていて、良い面はたくさんあります。それをどう発信していくかという中で、今のところ市内に向けては出ている部分がありますが、市外、特に都内となるとまだまだ弱い面があるというのは感じています。今後の課題として、人的にも組織的にも強化していく必要があるのではないかなと感じています。

(中山会長)

他に何かございますか。

(吉澤委員)

今の話で島田委員にお聞きしたいのですが、流山とか幸手のアピールというのはどのような媒体を使って他所にアピールしているのですか。

(島田委員)

ありとあらゆる媒体の中で、子育て世代をターゲットとすると、今はスマホの時代なのですね。ネットの社会になっておりまして、SNS、そのようなものを上手く活用して口コミで広げていくというのが一番効果的だというふうに言われています。もう一つはやはり紙媒体ですよ。ポスターとかあとは冊子のようなものを上手く作って東京駅に貼るとか、そのようなことを着実にしていくことだと思います。

(中山会長)

では他に無いようでしたら基本目標4のほうに移りたいと思いますが、宜しいでしょうか。では最後ですね、基本目標4の、「時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに地域と地域を連携する」について、特に高齢者というところでしょうかね。これにつきまして委員の皆様何かご意見ございますか。

(廣本委員)

私は今ある場所の自治会長をしているのですが、心配でハラハラするような一人住まいの方が増えてきましたね。老人が2人で住んでいる分にはまだ何とかなるけど1人になってしまい、それで1人で住んでいて、挨拶すると、あらっ、少し認知症が入って来ているのかな、なんてことを感じると本当に心配ですよ。そうかといっても本人は気が付きませんから元気にしているのですが、ここに空き家対策の問題が載っていますし、1人暮らしを支援するというのも載っているのですけれども、結果的に空き家になってしまって、一人住まいしていた人が、ある時死んでいたと。その後それが空き家になっていると。このような状態も実際にある訳です。こういうのって何か解決する方法は無いのかなと、事前に。例えば、年取って1人住まいになった時に、自分の土地建物を売って然るべき施設に入るというようなことを非常に上手に導いてくれるような、そのような機能はできないのだろうか。例えば市がそれを行うというのなかなか大変ですが、業者が行うのも年寄りを上手くだましてしまうということもあるものですからね。やはり市がかんであげて、そのような1人住まいというのはもう分かっている訳ですから、そのような所に上手に相談に乗るような、そしてその処分のサジェスション（提案）も、空き家にしないようにしてあげられて、業者もきちっとした業者を紹介してあげられる。更にはそのような施設みたいなものを蓮田市に業者を呼んできて造ってもらって、さっき言った区画整理をするような場所も出てきますから、そういう所にも誘致をさせて、ウォッチ（監視）はちゃんと市がしているというような、そんな膨大な機能があると大変ありがたいなと。ちょっとこの中には無かったものですから。

(中山会長)

そうですね。これはでも社会福祉協議会の仕事になるのですか。お願いします。

(椿本健康福祉部長)

高齢者の1人暮らしの方というのは蓮田市でも大変年々増えて来ている状況となります。11ページのほうにも高齢者対策としまして高齢者見守り支援ネットワークというものがございます。こちらのほうはそれぞれ郵便局さんであったりとか、牛乳配達、新聞配達、水道の検針、それに加えて病院のワーカーさんであったり、地域の様々な団体の方、民生委員さん、自治会長さんにも見守りをお願いしています。74団体の方々がお集まりいただきまして、地域での見守りを日頃の生活の中で、なんとなく、柔らかに見守ってほしいというお願いをしております。その中で、ちょっと最近あそこのお婆ちゃんの顔が見えないとか、新聞が溜まっているようだとか、そういう状況がありましたら、地域包括支援センター…蓮田市の場合は現在まだ1ヶ所でございますが、在宅医療介護課の中にありまして、そちらの方に電話をしていただきたいというPRはしております。そういった見守りをさせていただきつつ、また認知症が出て来て、ちょっと後見人が必要であるとか、またそういった身内がないということで

あれば市長申し立てというのがございますので、そういったルートに乗せていくということも在宅医療介護課で行います。保健師、社会福祉士、それからケアマネが対応させていただいている現状がございます。空き家等土地関係については、健康福祉部ではまだ対応させていただいていないのですが、そういった事業の見守りはさせていただきます。また、社会福祉協議会のほうでも一人暮らしの高齢者の見守り事業を挙げています。こちらは、月に2回程行っただいていますが、ボランティアさんや民生委員さんが中心となりまして、地区にお元気ですかという形で見回っていただいている状況でございます。

(中山会長)

ありがとうございます。

(廣本委員)

その入り口のところは私もわかっているのですよ、私も一緒に入っていますからね。要はその後のちょっと大変なところはどこの市町村も行っていないと思うのですが、いわゆる住宅地の処分と施設への導きと、そういうことも含めて行ってあげたら、これは凄い市だという評価になるだろうと僕は思いますね。

(中山会長)

ありがとうございます。はい、どうぞ。

(吉澤委員)

今空き家の話が出たのですが、私達農家のほうでも空き家って凄く重要なことでして、どうしてかというところにアライグマやハクビシンという害獣が棲みついてしまうのですね。そうやって手つかずになりどんどん朽ち果てていくので、実際私の畑の横に空き家があって、そこから必ず出て来るのですね、やつが。で、食べられているのを毎日見ているので、できればそういうのは。空き家って確か上に家があると税金が安くなるからずっと皆ほったらかしなのですよね。そういうのをもう少し制度として簡単に壊せるような仕組みになっていただけると我々農家としても、景観としても良いのかなというふうに思います。

(中里委員)

条例化しているところもありますからね。空き家条例として。今蓮田市も検討されていますよね。

(中山会長)

確かにそのような制度ですからね、安いからとか、取り壊し代が出ないからとか。これも空き家対策でもうちょっと具体的に適正に管理しますという、もう一步踏み込めるような案が、空き家に対して難しいということですよ。

(廣本委員)

今老人が施設に入る場合、何人位が入れる施設が蓮田市にはあるのですか。

(椿本健康福祉部長)

ちょっと今数字的なものは出ないのですが、特別養護老人ホームは、来年3箇所になるのですが、現在2ヶ所ございます。それから老人保健施設というのがございまして、それが現在2ヶ所。今後の予定ですが、施設の計画は介護保険事業計画及び高齢者福祉計画の中で、施設数、整備数を定めておりまして、今現

在27年から29年度までが第6期介護保険事業計画の期間ですね。その中で100床が新たに協議を受け付けるということで予定しております。それは来年からなのですが、来年から受け付けるということで年々グループホーム及びそういった施設は対象人数を見通して計画を進めています。

(廣本委員)

今待っている人が多い状態ですか。入りたいけれども入るスペースが無いということで。

(椿本健康福祉部長)

はい、そうですね、計画を作る時に調査をしておりますけれども、やはり100人近くお待ちになっている施設もございます。今後は2025年までには高齢者がかなり増えていくと予想されており、埼玉県内でも東部地区はそういう状況ですが、県北のほうの施設の方にお聞きしますと、もうだぶついてきているという施設もございます。やはり施設を建て易い地域というのは、事業者さんが集中していきますので、そういった意味では足りて来ているような施設も出て来ているという状況ですが、東部地区ではまだまだ待機待ちの方が多く状況でございますので、蓮田市でも6期、7期と進めて行く中で、施設整備は考えていきたいというふうに考えております。

(廣本委員)

金額的なもので入れない人もたくさんいるのではないですか。金銭的な、経済的な面で。先程、自分で住んでいる所を処分する所まで面倒見てあげたら良いなというのはそういうことなのですよ。経済的な面はそれである程度は解決しますでしょう。ただそのノウハウを持っていないのですよね。年取ってしまったから、そんなことを考えるのも煩わしいのですよね。だからどこかでアパートを借りて一人で住んでいるとか、このようなことになって空き家になってしまうとか。もっと便利な所へ行きますからね。駅のそばとか。そのようなことになり、空き家になると、このような状態も出て来るので、何か一連で考えてあげて、年寄りが最後まで良い所に住めたということが出来る状態が望ましいですね。

(中山会長)

ばらばらになっていて、つながりが無いのですよね。

(中里委員)

そうそう、縦割りで、これはあちらの組織です、これはあちらの組織ですとなっていますから。

(中山会長)

で、一周して戻ってくるという感じですよ。何か中里委員、一言、大丈夫ですか。

(中里委員)

老健とか特養の施設も必要なのですが、蓮田市の人が優先的に入れるかというところではなく、地元蓮田市の負担があることもあり、施設があれば全てオールマイティで良いかということ、難しいところもあるのではないかと思います。

(中山会長)

介護保険が上がったとか、いろいろな問題も出てきますから。

(中里委員)

そうなのでよね。同じ投資をしても子育てはこれからの可能性があります。我々はどちらかというとおしまいの方ですから。その辺のところ、福祉だから一概には考慮してられないですけどね。そういう側面も持ち合わせているのも事実なのかなど。行政にしてみれば最終的には予算ですからね。年間の予算でどうするかということですから。そこもまちづくりの中で考えていかなければ。

(中山会長)

空き家対策のほうは、その土地を処分するというで新たなお金が発生しますからね。それが非常にいい解決策ではないかという感じですね。他に何かありますか。

(寺澤委員)

(6)の大学との連携事業というのは、具体的にどのような事業なのでしょう。

(渡辺総合政策部長)

大学との連携というのは、まだ具体的なものは決まっておられません。内容につきましては、これからで、どういったものが連携できるかということも含めて今後検討して参りたいと考えています。

(中山会長)

一応私共では、保健医療分野で管理栄養士、看護師、理学療法士、義肢装具士を養成しておりますから、それらに関するプロフェッショナルもおりますし、あと心理学が結構強い大学なので、先程子育てのやり方、特に発達障害のお子さんが多いものですから、そのようなところで何かこちらの持っている資源を市のほうに還元できるチャンネルを作りたいと、今政策調整課さんのほうにお願いしているところです。子ども大学は大分実施しているのですけれども、もうちょっと連携を拡大しなければいけないなと思っています。他に何かございますか。それでは時間も大分押して参りましたので、他に無いようでしたらこれで審議を終わらせていただきたいと思いますと思うのですが、宜しいでしょうか。

それでは以上を持ちまして本日の議事について、全て滞りなく終えました。ありがとうございます。それでは議事進行を事務局にお返しします。

4 その他

(田島調整幹)

委員の皆様におかれましては、多くの貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。それでは最後、次第の4、その他といたしまして、事務局のほうから連絡等がありますので申し上げます。

(事務局)

貴重なご意見をいろいろとありがとうございました。蓮田市では、「人口ビジョンと総合戦略」を別々に策定するというで検討して参りましたが、今回埼玉県さんのほうで、両方で一冊という形で策定しておりますので、蓮田市につきましても一つにする方向で検討しております。今後また皆様からいただきましたご意見を基に本部会議を12月には開催して参りたいと考えております。

その後12月から1月にかけてパブリックコメント、市民の方にご意見をお聞きするということを行っていきたいと考えております。パブリックコメントで意見を伺った後に、もう一度皆様方にお示しする機会として、1月末から2月にかけて会議を予定しておりますので宜しく願いいたします。そして3月に議会に報告していく、そういったスケジュールを考えております。どうぞ宜しくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

(田島調整幹)

以上を持ちまして本日の議事は全て終了いたしました。閉会におきまして浅田副会長のほうからご挨拶をお願いいたします。

5 閉会挨拶

(浅田委員)

改めまして皆様、ご苦勞様でございます。今日は本当に貴重な意見をいただきまして誠にありがとうございます。アンケートの結果でも出ていたのですが、市内ピンポイントでの交通の利便性の悪さというのはあるのですが、上野東京ラインであったりとか、圏央道の白岡菖蒲インターが開通したりとか非常に交通の利便性は蓮田市において高まっていると思います。市長さんも帰り際に言われていましたけれども、可能性がまだまだある市だということを私のほうも感じております。これから子育てのし易いまち、高齢者に優しいまち、安心・安全なまちというところを目指して、そして教育水準の高いまち、というところをぜひ情報発信しながら、このまち・ひと・しごと創生総合戦略が更に膨らませた形になればと思いますので、皆様引き続きご協力宜しくお願いいたします。

それでは只今を持ちまして、第3回蓮田市まち・ひと・しごと創生有識者会議を閉会します。どうもお疲れ様でした。